

令和元事業年度
退職者医療特別会計

(添付書類)

事業報告書
決算報告書

社会保険診療報酬支払基金

令和元事業年度
事業報告書

令和元事業年度退職者医療関係業務 事業報告書

1. 退職者医療関係業務の概要

(1) 事業内容

国民健康保険法の定めるところにより、次の業務を行うこと。

- ア 被用者保険等保険者から拠出金を徴収すること。
- イ 都道府県に対し療養給付費等交付金を交付すること。
- ウ 前記ア及びイの業務に附帯する業務を行うこと。

(2) 職員の定数及びその前事業年度末との比較

区 分	令和元事業年度	平成 30 事業年度末
職員定数	19 名	19 名

(3) 沿 革

年 月	事 業 内 容 の 沿 革
昭和 59 年 10 月	国民健康保険法に基づく退職者医療関係業務を開始した。

(4) 設立の根拠

社会保険診療報酬支払基金法（昭和 23 年法律第 129 号）

(5) 退職者医療関係業務を行う根拠となる法律

国民健康保険法（昭和 33 年法律第 192 号）

(6) 主管省庁名

厚生労働省

2. 役員の定数並びに各役員の氏名、役職、任期及び経歴

本特別会計による役員定数はない。

3. その事業年度及び過去3事業年度以上の事業の実施状況

(1) 令和元事業年度

ア 事業計画の実施の結果

(ア) 拠出金の徴収

令和元事業年度における拠出金の予定額は

療養給付費等拠出金	1,322,235 千円
事務費拠出金	433,565 千円
計	1,755,800 千円

であって、これに対する拠出金の徴収決定額は

療養給付費等拠出金	1,619,385 千円
事務費拠出金	433,775 千円
計	2,053,160 千円

であった。

この拠出金徴収決定額に対し収入済額は

療養給付費等拠出金	1,492,005 千円
事務費拠出金	403,608 千円
計	1,895,613 千円

であって、差し引き

療養給付費等拠出金	127,380 千円
事務費拠出金	30,167 千円
計	157,547 千円

については、収入未済額として翌年度へ繰り越すこととした。

令和元事業年度に繰り越された平成30事業年度の収入未済額

療養給付費等拠出金	3,530,001 千円
事務費拠出金	33,834 千円
計	3,563,835 千円

については、年度内に全額が収入となった。

(イ) 療養給付費等交付金の交付

令和元事業年度における療養給付費等交付金の予定額は

13,174,241 千円

であって、これに対する療養給付費等交付金の交付決定額は

6,649,852 千円

であった。

この療養給付費等交付金交付決定額に対し支出済額は

6,539,494 千円

であって、差し引き

110,358 千円

については、支払未済額として翌年度へ繰り越すこととした。

令和元事業年度に繰り越された平成 30 事業年度の支払未済額は

2,986,396 千円

については、年度内に全額を支出した。

令和元事業年度において交付決定した平成 30 年度分に係る療養給付費等交付金の確定額は

59,946,652 千円

であって、平成 30 事業年度において交付決定した平成 30 年度分に係る概算療養給付費等交付金の決定額は

62,361,231 千円

であった。この精算にあたっては、次のとおり返還請求又は追加交付を行った。

療養給付費等交付金の返還請求決定額は

3,285,862 千円

であった。

この療養給付費等交付金の返還請求決定額については、年度内に全額が収入となった。

また、療養給付費等交付金の追加交付決定額は

871,283 千円

であった。

この療養給付費等交付金の追加交付決定額については、令和元事業年度における療養給付費等交付金の決定額に含まれており、年度内に全額を支出した。

イ 資金計画の実施の結果

令和元事業年度における資金計画は、収入支出とも

事業費勘定	57,063,180 千円
事務費勘定	794,847 千円
計	57,858,027 千円

を予定したが、収入済額及び支出済額はともに

事業費勘定	58,867,453 千円
事務費勘定	899,182 千円
計	59,766,635 千円

であって、差し引き

事業費勘定については	1,804,273 千円
------------	--------------

増加し、

事務費勘定については	104,335 千円
------------	------------

増加した。

なお、資金計画の実施状況の明細は、次表のとおりである。

資 金 計 画 実 績 表

[事業費勘定]

支		出		収			入	
区 分	予 定 額 (A)	実 績 額 (B)	比較増△減額 (B - A)	区 分	予 定 額 (A)	実 績 額 (B)	比較増△減額 (B - A)	
	千円	千円	千円		千円	千円	千円	
療養給付費等交付金	17,568,958	9,525,890	△ 8,043,067	前年度からの繰越金	49,701,312	50,120,468	419,156	
事務費勘定へ繰入	433,565	433,775	210	療養給付費等拠出金収入	5,156,318	5,022,006	△ 134,311	
借入金利息	1	—	△ 1	事務費拠出金収入	436,061	437,442	1,381	
拠出金精算返還金	24,407,087	23,931,571	△ 475,515	借 入 金	290,000	—	△ 290,000	
予 備 費	14,653,569	—	△ 14,653,569	雑 収 入	3,483	1,673	△ 1,809	
翌年度への繰越金	—	24,976,215	24,976,215	交付金精算返還金	1,476,006	3,285,862	1,809,856	
合 計	57,063,180	58,867,453	1,804,273	合 計	57,063,180	58,867,453	1,804,273	

資 金 計 画 実 績 表

[事務費勘定]

区 分	支 出			収 入		
	予 定 額 (A)	実 績 額 (B)	比較増△減額 (B - A)	予 定 額 (A)	実 績 額 (B)	比較増△減額 (B - A)
事 務 取 扱 費	千円 416,965	千円 431,523	千円 14,558	千円 342,326	千円 447,574	千円 105,248
職 員 諸 給 与	209,530	204,801	△ 4,728	433,565	433,775	210
管 理 諸 費	207,435	226,722	19,287	18,618	17,828	△ 789
そ の 他 の 支 出	54,275	28,343	△ 25,931	338	4	△ 333
翌年度への繰越金	323,607	439,315	115,708			
合 計	794,847	899,182	104,335	794,847	899,182	104,335

ウ 借入金
該当なし

エ 財政投融资資金の受入れ
該当なし

オ 国からの補助金等
該当なし

(2) 過去3事業年度

ア 事業計画の実施の結果

平成28事業年度から平成30事業年度の事業計画の実施の結果は、次表のとおりである。

拠出金

(単位：千円)

区 分	年度	予 定 額	徴収決定額	収 入 済 額	収入未済額
療養給付費等	28	279,944,516	250,149,387	231,191,404	18,957,983
	29	255,039,942	242,717,062	224,872,357	17,844,705
	30	90,566,189	47,338,266	43,808,265	3,530,001
事 務 費	28	489,314	490,124	453,662	36,462
	29	510,399	510,816	474,089	36,727
	30	473,032	473,286	439,452	33,834

各年度の収入未済額は、翌年度に全額収入となった。

療養給付費等交付金

(単位：千円)

年 度	予 定 額	交付決定額	支 出 済 額	支払未済額
28	388,372,357	320,330,880	300,090,176	20,240,704
29	248,055,937	186,420,940	174,649,169	11,771,771
30	128,591,859	68,623,328	65,636,932	2,986,396

各年度の支払未済額は、翌年度に全額支出した。

イ 資金計画の実施の結果

平成 28 事業年度から平成 30 事業年度の資金計画の実施の結果は、次表のとおりである。

〔事業費勘定〕

(単位：千円)

年 度	区 分	予 定 額 (A)	実 績 額 (B)	比較増△減額 (B - A)
28	支 出	425,898,353	345,661,582	△ 80,236,770
	収 入	425,898,353	345,661,582	△ 80,236,770
29	支 出	306,426,609	254,641,068	△ 51,785,540
	収 入	306,426,609	254,641,068	△ 51,785,540
30	支 出	175,752,395	128,427,131	△ 47,325,263
	収 入	175,752,395	128,427,131	△ 47,325,263

〔事務費勘定〕

(単位：千円)

年 度	区 分	予 定 額 (A)	実 績 額 (B)	比較増△減額 (B - A)
28	支 出	895,076	950,673	55,597
	収 入	895,076	950,673	55,597
29	支 出	906,047	950,475	44,428
	収 入	906,047	950,475	44,428
30	支 出	880,220	867,811	△ 12,408
	収 入	880,220	867,811	△ 12,408

ウ 借入金
該当なし

エ 財政投融资資金の受入れ
該当なし

オ 国からの補助金等
該当なし

4. 退職者医療関係業務の一部の委託を受け、又は退職者医療関係業務に関連する事業を行っている一般社団法人又は一般財団法人その他の団体であって、支払基金が出資、人事、資金、技術、取引等の関係を通じて財務及び事業の方針に係る決定を支配し、又はそれらに対して重要な影響を与えることができるもの（以下「関連一般社団法人等」という。）の名称、事務所の所在地、基本財産を有するときはその額、事業内容、役員の数、代表者の氏名、職員数及び支払基金との関係

該当なし

5. 支払基金と関連一般社団法人等との関係の概要
該当なし

6. 支払基金が対処すべき課題

退職者医療制度は、経過措置として整備されており、今後においても、継続して関係機関との緊密な連携のもとに適正、円滑で効率的な業務運営に努める必要がある。

令和元事業年度 決算報告書

1. 令和元事業年度退職者医療特別会計収入支出決算書
2. 予算総則に規定した事項に係る予算の実施結果

1. 令和元事業年度退職者医療特別会計収入支出決算書

1. 事業費勘定

令和元事業年度における事業費勘定の

収入決定済額は 40,461,194 千円

であって

支出決定済額は 31,015,199 千円

であった。

したがって、収入が支出を 9,445,994 千円

超過した。

また、この勘定の損益計算上の利益は 9,445,994 千円

であって、国民健康保険法附則第 19 条において準用する高齢者の医療の確保に関する法律（昭和 57 年法律第 80 号）第 146 条第 1 項の規定により、積立金（別途積立金）として整理することとした。

2. 事務費勘定

令和元事業年度における事務費勘定の

収入決定済額は 476,392 千円

であって

支出決定済額は 449,351 千円

であった。

したがって、収入が支出を 27,040 千円

超過した。

なお、この超過金額については、収入予算として国民健康保険法附則第 19 条において準用する高齢者の医療の確保に関する法律第 144 条による厚生労働大臣の認可を受けることにより、国民健康保険法附則第 17 条各号に掲げる業務に関する事務の処理に要する経費に充てることとした。

3. 収入支出決算に係る事業費勘定及び事務費勘定それぞれの各款項の総額を示せば、次表のとおりである。

令和元事業年度退職者医療特別会計
事業費勘定収入支出決算書

[収入の部]

科	目	収入予算額	収入決定済額	収入予算額と収入決定済額との差額	備考
(款)	拠出金収入	千円 1,755,800	千円 2,053,160	千円 297,360	
(項)	療養給付費等拠出金収入	1,322,235	1,619,385	297,150	
(項)	事務費拠出金収入	433,565	433,775	210	
(款)	受入金	35,120,499	35,120,498	△0	
(項)	受入金	35,120,499	35,120,498	△0	
(款)	借入金	290,000	—	△290,000	
(項)	借入金	290,000	—	△290,000	
(款)	雑収入	1,479,489	3,287,535	1,808,046	
(項)	雑収入	3,483	1,673	△1,809	
(項)	交付金精算返還金	1,476,006	3,285,862	1,809,856	
合	計	38,645,788	40,461,194	1,815,406	

[支出の部]

科 目	支出予算額 千円	前事業年度の繰越額 千円	予備費使用額 千円	流用増 △減額 千円	支出予算現額 千円	支出決定済額 千円	翌事業年度の繰越額 千円	不 用 額 千円	備 考
(款) 療養給付費等交付金	13,174,241	—	499,895	—	13,674,136	6,649,852	—	7,024,283	
(項) 療養給付費等交付金	13,174,241	—	499,895	—	13,674,136	6,649,852	—	7,024,283	
(款) 事務費勘定へ繰入	433,565	—	211	—	433,776	433,775	—	0	
(項) 事務費勘定へ繰入	433,565	—	211	—	433,776	433,775	—	0	
(款) 借入金償還金	1	—	—	—	1	—	—	1	
(項) 借入金利息	1	—	—	—	1	—	—	1	
(款) 諸 支 出 金	24,407,087	—	—	—	24,407,087	23,931,571	—	475,515	
(項) 拠出金精算返還金	24,407,087	—	—	—	24,407,087	23,931,571	—	475,515	
(款) 予 備 費	630,894	—	△ 500,106	—	130,788	—	—	130,788	予備費は用理由は、別紙のとおり
(項) 予 備 費	630,894	—	△ 500,106	—	130,788	—	—	130,788	
合 計	38,645,788	—	—	—	38,645,788	31,015,199	—	7,630,588	

令和元事業年度退職者医療特別会計
事務費勘定収入支出決算書

[収入の部]

科	目	収入予算額	収入決定済額	収入予算額と収入決定済額との差額	備考
		千円	千円	千円	
(款)	事業費勘定からの受入	433,565	433,775	210	
	(項) 事業費勘定からの受入	433,565	433,775	210	
(款)	受 入 金	38,164	38,164	0	
	(項) 受 入 金	38,164	38,164	0	
(款)	雑 収 入	338	4,452	4,114	
	(項) 雑 収 入	338	4,452	4,114	
合	計	472,067	476,392	4,325	

[支出の部]

科 目	支出予算額	前事業年度の繰越額	予備費使用額	流用増 △減額	支出予算現額	支出決定済額	翌事業年度の繰越額	不 用 額	備 考
(款) 事務取扱費	千円 467,393	—	—	千円 —	千円 467,393	千円 449,351	千円 —	千円 18,041	
(項) 職員諸給与	209,610	—	—	—	209,610	205,056	—	4,553	
(項) 退職給付引当預金への繰入	52,031	—	—	—	52,031	51,761	—	269	
(項) 管理諸費	205,752	—	—	—	205,752	192,533	—	13,218	
(款) 予備費	4,674	—	—	—	4,674	—	—	4,674	
(項) 予備費	4,674	—	—	—	4,674	—	—	4,674	
合 計	472,067	—	—	—	472,067	449,351	—	22,715	

(別紙)

事業費勘定予算予備費使用理由書

事業費勘定予算予備費について、健康保険法施行規則等の一部を改正する省令（平成20年厚生労働省令第77号）附則第14条の規定によりなおその効力を有するものとされた社会保険診療報酬支払基金の退職者医療関係業務に係る財務及び会計に関する省令（昭和59年厚生省令第40号）第7条第2項の規定により行った予備費使用理由は、次のとおりである。

1. 平成30年度療養給付費等交付金の確定に伴う追加交付額の決定により、「療養給付費等交付金」が増額となったことにより、既定予算に不足が生じたため。
2. 保険者設立による事務費拠出金収入の増収に伴い、「事務費勘定へ繰入」が増額となったことにより、既定予算に不足が生じたため。

2. 健康保険法施行規則等の一部を改正する省令附則第14条の規定によりなおその効力を有するものとされた社会保険診療報酬支払基金の退職者医療関係業務に係る財務及び会計に関する省令第13条第2項の規定による予算総則に規定した事項に係る予算の実施結果

令和元事業年度退職者医療特別会計予算総則（以下「総則」という。）に規定した事項に係る予算の実施結果は、次のとおりである。

1. 総則第2条の規定による経費の流用は、行わなかった。
2. 総則第3条の規定による経費の翌事業年度への繰り越しは、行わなかった。
3. 総則第4条の規定による借入金の限度額は290,000千円であって、これに対する借入額（本年度において借入れた短期借入金のうち、年度内に資金不足のため償還することができなかった金額について、国民健康保険法附則第19条において準用する高齢者の医療の確保に関する法律第147条第3項の規定により、厚生労働大臣の認可を受けて行った借換え額）は、なかった。